

# 放射能を防ぎながら、 楽しい住まいづくり



ふくしま建築集団 代表

えんどうちよきち

## 遠藤知世吉さん

遠藤知世吉建築設計工房 代表  
一級建築士 / インテリアプランナー



「ふくは家」設計者、「ふくしまの家」設計コンペ最優秀賞、設計監理した住宅にて2011年度グッドデザイン賞受賞など。

「この非常時に建築人として何ができるかを示したい」そんな想いを持った建築士や設計士が集い、各社のノウハウを活かし迅速かつ精巧な住まいづくりを提案するものが、ふくしま建築集団です。全25社からなる当建築集団が提案する「放射能対策をしながら快適で豊かな住まい」の実現に向けた想いをご紹介します。

「建築士は一匹狼でなければならぬ」と思っていました。でも、震災を機にふくしま建築集団で活動していると、知らなかった事を知れたり、各社から多彩なアイデアが生まれたり。仲間との「輪」というのを「すごく感じます」と遠藤さん。福島県内に限らず、今の日本は建築ラッシュの時代。ひとりでは出来ないことを仲間と共に可能にしていくことで、未曾有の災害を乗り越えるチカラとしていきます。

遠藤さん自身も、放射能が街に与える影響を知るべく、長崎・広島を訪ねたといいます。原爆の被害から立ち直り、にぎわう姿を目の当たりにして「希望の灯をももしてくれた」と感じたそうです。自身で

県産材使用による  
地元匠の技で  
自然を味方にした  
福島らしい住宅を

放射線取扱主任者の資格を取得し、仲間と相談しながら放射能対策住宅「ふくは家」を設計しました。「この先もつと企画を増やし、建築における『FUKUSHIMA BRAND』を創り、世界へ自信を持って発信できる建築集団として活動をしていきたい」と、これからの意気込みを語ってくれました。

### 学生からのメッセージ

今年6月、ふくしま建築集団が提案する「ふくは家」のおひろめ会が開催されました。その一枚の設計図を基に説明会と展示をするという今回のイベント。インタビューでは「私たちが行動したという姿を見せたい」という言葉がとても印象的でした。建築ラッシュを控え、福島県の建築家にとってこれからの行動は注目を集めることとなります。

この機会をどう活かすか、福島県のこれからは非常に注目したくなるイベントでした。復興という新陳代謝の中で、福島の新しい一面を見せてくれる建築家たちの情熱を感じた取材になりました。



次ページで「ふくは家(うち)」をご紹介します!

